

今日は、阿下喜小学校桐の子委員会の登下校見守りボランティア会のみなさんに集まっていた。現在登録いただいている方は、21 名。子どもたちの登下校の安全を見守っていただくみなさんには、感謝しかない▼今年度わたしは、正門での登校見守りをしている。その時の子どもの挨拶の状況を少し説明させていただいた。「自分からできる子が 1/3。きちんと返してくれる子が 1/3。できない子が 1/3（もう少し少ないかな）▼できない子には、いろいろ事情がある。友達と話に夢中な子、心の中では言ってくれているかもしれない。10 歳の壁を超え、思春期にさしかかる高学年の子の中には、（この子はしないと決めているのかな？と思う子もいる）▼しかし、どんな理由があろうともあいさつのできる子を育てたい。あいさつはルールではない。マナーだ。今できない子もやがてできる時がくる▼うれしかったのは、ボランティア会のみなさんも（あいさつのできる子に育てほしい）と思ってくださっていたこと。そしてそのために、自ら進んで子どもにあいさつをし続けるのだと言ってくださる方も▼もっとうれしかったのは、子どもに対する思いがポジティブだったこと。「子どもがあいさつをしない！」とは言わない。子どものせいにはしない。何とかしてあいさつのできる子を育てたいと言ってくださった。明日からもがんばるぞ！大人。